

いのちの言の葉2021

富山県教育委員会 令和3年度いのちの教育総合支援事業

いのちの先生「助産師」②

「いのちの授業」
富山市立老田小学校
令和3年11月6日実施

【授業の概要】

- ① いのちのはじまり
- ② 胎児の重さを体験
- ③ 生まれるときの家族の思い



（授業から感じたこと）

とても大きくて重い赤ちゃんの自分をお母さんががんばって産んでくれたのだと思いました。また、自分の命は1400兆分の1ということを知って、同じ命はないから、自分の命を大切にしていきたいと思いました。

（授業から感じたこと）

にんぷさんのおなかを体験して、にんぷさんは物を落としたときはとても動きにくいことが分かり、毎日こんな生活をしていて、すごいと思いました。

1400兆分の1のかくりつで生まれて、みんなよろこんでくれたから、これから危ないことをせずに命を大切にしたいです。

（授業から感じたこと）

いとこの赤ちゃんをだっこしたとき、すごく温かいし、みんなでまわりを囲んでいました。私が産まれた時はこんな感じだったんだなと思いました。一人を産むだけでもたくさんの時間と苦労が必要なんだと知りました。これからも命を大切にしていこうと思います。

（授業から感じたこと）

今日、目に見えるか見えないかくらい小さいたまごからこんなに大きくなり、育てていることがすごいということ学びました。傷つけていい命やむだにしている命などはないことをあらためて感じました。自分の命も、人の命も大切に、生きていこうと思いました。

